

波の知覚と薄氷ドリフト錯視

北岡明佳(立命館大学総合心理学部)

波は、エネルギーや情報が空間を通じて伝播する現象であり、物質の移動を伴わずに振動や変化が広がる。波は、媒質の粒子がそれぞれの平衡位置を中心に振動することで形成される。波が進行する方向と粒子の振動する方向の相対的關係によって、波は縦波(粒子の振動方向が波の進行方向と同じ。疎密波)と横波(粒子の振動方向が波の進行方向と直交)に分類される。本講演では、任意の画像を媒質として用いた計算論的な波のシミュレーションをデモするとともに、それらのシミュレーションの作成の過程において新たに発見された「薄氷ドリフト錯視」を報告する。薄氷ドリフト錯視は図地分離現象の一種で、矩形波の縦波において観察され、波の進行方向に動く粒子のグループ(密の部分)が波の進行方向とは反対の方向に動く粒子のグループ(疎の部分)よりも手前に見える現象である(下図をクリックすると動画のデモが出る)。

